

第2回 第2期伊賀市中心市街地基本計画策定委員会 議事録

- 日時：平成31年4月19日（金）14：00～16：30
- 場所：伊賀市役所 501会議室
- 出席者：久隆浩委員長、山本禎昭副委員長、柘植満博委員、廣澤浩一委員、石橋正行委員、中村忠明委員、南徹雄委員、家喜正治委員、小丸勅司委員、平井俊圭委員、菊山美早委員、杉山美佐委員、佐藤良子委員、高橋健作委員、大森秀俊委員、大田智洋委員、中澤留美委員、
（欠席：福山浩司委員、豊福裕二委員、久保千晴委員）
- 出席者：産業振興部 東部長、堀次長、中心市街地推進課 堀川課長、松尾主任、奥井主任、伊賀市中心市街地活性化協議会 山崎事務局長、上野商工会議所 佐治事務局長

1. 開会

- ※ 伊賀市産業振興部の堀次長から開会のあいさつを行った後、伊賀市長に代わり大森副市長から柘植委員（第1回委員会欠席）に委嘱状の交付を行った。
また、堀次長から3名の委員（福山委員、豊福委員、久保委員）の欠席の報告を行った。

2. あいさつ

- ※ 久委員長が第2回委員会の協議に先立ち、あいさつを行った。

3. 協議事項

(1) 中心市街地の課題について

- ※ 事務局から、資料1に基づき「中心市街地の課題」について説明を行い、以下の内容を確認した。
- 資料1の【現状】の記述内容については、今後の基本計画の策定に向けて伊賀市人口や忍者屋敷への来訪客数等の更新を行う。

(2) 中心市街地活性化の目標設定について

- ※ 事務局から、資料2に基づき「中心市街地活性化の目標設定」について説明を行った（特に意見なし）。

(3) 計画エリアについて

- ※ 事務局から、資料3に基づき「計画のエリア」について説明を行い、協議の結果、以下の内容を確認した。
- 本来、町名の頭に「上野」とつく町を城下町エリアとすべきなのであり、現行計画の中心市街地エリアはこうした町を一部分断しているため見直すべきという意見があり、立地適正化計画の都市機能誘導区域の関係もふまえ、事務局として庁内関係課及び国等との協議を行い、次回の委員会でその協議検討結果を説明することとした。

(4) 個別事業について

- ※ 事務局から、資料4・5及び参考資料1・参考資料2-1・2-2・3に基づき「個別事業」について説明を行い、委員長が本計画策定に向けた事業等の前向きな意見を求めたところ、以下の意見があった。

- (委員) 元々、上野は扇状地であったため北と南には水があるので、まちなかに水を引いて親水性のあるまちづくりを検討してほしい。
 - (委員長) 現在は暗渠になっているとしても、城下町であれば水を引いているはず。金沢市は水路条例をつくって、今それをやっているのだから、新たに引き込むよりも昔の風情を再現していく考え方も参考にしてください。
 - (委員) 参考資料 2-1 に丸之内ルネサンス事業がある。どういう事情で中止になったかはわからないが、堀があったようなところに水路をとという計画で、過去にはそうした事業もあったということを確認しておいてほしい。
 - (委員長) 岡崎市も城下町であるが、川沿いと堀沿いを人が集まるスポットとして計画し直そうとして頑張っているのだから、全国の城下町がどのような面白い試みをやっているのか情報収集して次回以降に情報提供していただければと思う。
 - (委員) 城下町のホテルについて数年前に提案したことがあり、市内の経営的に難しいアパートのホテルとしての利用を検討したことがある。2035年には介護人材が79万人不足するといわれており、伊賀市の人口で単純に割り戻すと600人くらい不足し、1施設平均60人とすると10施設分の特別養護老人ホームが不足することになる。一方、東京は本当に人口が集中しており、インフラがないにもかかわらず介護の必要な人が増え、介護難民が増えることになる。伊賀市は幸いにも施設も結構あるが、介護職員、介護人材が足りない。明るいきざしとして、これまで高卒の職員を介護人材として採用してきたが、はじめて全国的に職員募集をしたら市外、県外から大卒の応募があり、そのうち一人は遠方から通っており、もう一人は伊賀市内に住んでいる。こういう傾向がここ数年でできており、市外或いは県外から伊賀市に住みにきてもらう可能性がある。福祉介護人材を確保するのに、都市部からきてもらうことも十分考えられるので、まちなかの空き家をホテルとして、或いは住まいとして活用できるのであればそこに住んでもらう。また可能であれば、一定期間を伊賀市内のまちなかで住んでもらえば固定資産税を減免する施策をうてばどうかと思う。
- もう一つの市街地への誘導策として、市内にはリフォーム研究会があり、個別の身体機能に応じた住まいにリフォームが可能である。また、伊賀市は観光を売りにしているのであれば、志摩市はバリアフリーツアーで成功しているのだから、そのようなことも検討してほしいと思う。
- (委員長) バリアフリーの宿泊で有名なのは武生市の嬉野温泉であり、旅館協会が徹底的に呼びかけてほぼ全ての旅館・ホテルが客室まで車いす対応ができています。温泉にも車いすの人も入れるようなサービスを提供している。障がい者の方の旅行には介助者が同行し、高齢者を含む家族旅行が増えると観光客も増えるので、バリアフリーの効果もある。
 - (委員) 市街地の活性化のためにFM放送、ローカルのFM局を設置してほしい。伊賀には伊賀上野ケーブルテレビがあるが、なかなか神輿があがらない。FM放送は観光だけでなく大きな起爆剤となるので是非検討してほしい。
 - (委員) FM放送は民間でやるのが第一だと思うので、民間側でそうした事業者がいるかどうかが一番大事かと思う。そういうなかで市としてどういう協力ができるかということになるかと思う。
 - (委員長) 今はネットラジオも普及している。インターネットラジオは大きな施設

もいないし、お金もかからないのですぐに始められる。まずインターネットラジオでやってみてうまくいけば、市民から出資を募って電波の方でのFMに切り替えていく手もある。ついでに、これからの世の中なのでネット活用の事業も組み入れていけば良いのではないかと思う。例えば、最近 Airbnb（エアビーアンドビー）という、空き家を民泊で貸してくれる情報をネットで提供しているものであるが、Airbnb とタイアップしたまちづくりも各地ででてきている。こうした情報プラットフォームとうまくタイアップしていく。更にタクシーとか配車業界でウーバーがでてきているので、うまくネットを使いながら個人事業者がお客と直接やりとりをできるシステムを伊賀でも使ってはどうかと思う。ネット活用はハードの施設もあまりいらず、お金もかなり低廉でできるので、参考にしてはどうかと思う。

- （委員）ラジオではないが、既に「Iga ラブ」というインターネット、ウェブでの動画配信を行っている人がいる。FM放送というよりは我々の下の世代は、動画配信の方がより重視されていくのかと思う。
- （委員長）そうした情報をうまく伊賀市民や観光客にパッケージとして届ける仕組みが必要かと思う。
- （委員）点は本当に沢山あるが、それを紐づけてうまくまとめていくことが大事だと思う。
- （委員）バリアフリーは上野城などの難問があるが、フリーワイファイを伊賀市として整備していくことが一つのPRポイントになるのではないか。ワイファイエリアを地図にすればお客がそこに行き、ワイファイからネット動画もみられるし、いろんな観光情報にもアクセスできる。モバイルに適応したところをしっかりと整備していくことが大事である。
- （委員）フリーワイファイもパスワードを入れたりするのが面倒なので結局使わずじまいになり、これから4Gが5Gになると料金形態も変わってくるので、ワイファイより5Gを入れた方が良い時代になるのではないか。
- （委員）10年前の第1期計画について、2期計画に入る前に具体的に整理して、水路とかも含めて今ある施設・設備などをどう活かすかを考える必要がある。それと空き家を活用した城下町ホテルについては、地元の自治会とどういう連携をしているのかが大事になる。市民から見るとこの事業はコンサルタントとか、専門業者が勝手にやっていると思われる。今は産学官の連携がほとんど見られないので、こうしたところを見直さないといくら立派な絵を描いても絵に描いた餅になる。目に見えることをできるだけ早くやるようにしてほしい。
- （委員長）計画づくりにあたっては、ふくらませるよりも本当にしっかりできることを集約して描くことが大事である。描いた限りは10年後には必ず実現しているようなメニューに絞って描いた方が良いと思う。誰がやるのかを念頭に置きながら議論すると引き締まった計画づくりになると思う。また、先ほどの城下町ホテルについてNOTEの話については、地元の人でもやれるはずなので、地元で回せるようになれば良いと思う。このやり方もまちなかに点在した施設・建物を情報としてつないでいくことになるので、今までの話と重なってくる。点をどうやってつないでいけるかという仕組みがあれば動き始めるので、この後も意見をお願いしたい。
- （委員）第1期の反省もやって、しっかりと2期計画をたてていく必要がある。

今、天神商店街を核にしようとして進めている。工事も終わり今度2期工事を行う。一番大事なのはまちの核をつくることだと思っている。点ばかりでも線ばかりでも、そこに核がないとそこに執着しない。中心市街地活性化協議会から議会に認知していかないといけない。今の議論を聞いているとまちができてから後の話のように思うので、まちをどういう風に整備していくのか、もう少し足下を見据えて、忍者フェスタを一年中やろうと、そのために忍者ミュージアムを中町のヤオヒコの上につくろうという話もある。全体の整備の中でどうまちに活力が出てくるかということ考えていくことが大事である。人が流れてくる状態をつくる必要がある。昔やったまちかど博物館も尻すぼみになっているが、そういうものも回遊型の中に活かしてやれば良いと思う。天神さんを核にするということは、天神さんの東側を芭蕉ゾーンにし、西側を忍者ゾーンにするということを考えてやっていかないといけない。

- （委員長）まちかど博物館が萎んでいっている原因は何なのか教えてほしい。
- （委員）組織的に弱いということであるが、費用面では観光協会も一緒にやっているといる。忍者フェスタで歩くのは20分くらいなので、その間に何もないといけないので、まちなか博物館とかいろんなものがあると人の流れはできてくるのかと思う。
- （委員長）そこをどうするかということは重要なことだと思う。大阪の平野区の平野郷のまちづくりでは、まちかど博物館は5店舗から始め、15~20店舗くらいがやっている。ひとり一人声を上げてもらい、火をつけていく作業が続いて行かないと難しいと思う。空き家活用も補助金は動き出しの応援であるので、その後は自分たちで頑張っていくシナリオが必要である。
- （委員）先ほど話しにあった核のあるまちづくりに共感したが、まちづくりの段階として、第1に「観光の活性化」をして人を増やし、第2段階でそうした人が利用できる「商店が増える」、その結果まちが魅力的になって「居住の人が増える」、こういう段階かと思う。そうした情報をうまく伊賀市民や観光客にパッケージとして届ける仕組みが必要かと思う。その中で伊賀の観光の魅力を考えた時に、伊賀にしかないものは忍装束で堂々と歩けるまちだと思う。忍者博物館には人が沢山来ているのであれば、その関連施設をつくってはどうかと思う。
- （委員）中心市街地活性化については、観光のみならず市民もまちなかに足を運ぶようなまちになってほしい。観光客は上野公園やだんじり会館などに行く人が多いが、その帰りに南向いて来る道があるので、それを下の中心市街地まで足を運ばせるものが必要である。その途中の旧南庁舎が文化財に指定されたが、そんなに改造とかもできないのではないか。
- （事務局）文化財になったことで、文化財の価値を残していくことは大事なことであるが、そのまま従来のまま置いておくのではあまり価値が高まらないので、最近はそのフルに活用して文化財としての価値を更に高めていく動きが中心になっている。活用のための改修がどこまで許されるのかということだと思う。最近はずいぶんゆるやかになってきているので、対応はできるかと考えている。
- （委員）その活用が大事と考えているが、一市民としては早く結論を出してほしい。本当に一番の拠点がどうなるのか先行きが見えない。伊賀ぶらというように観光客がお城から下りてきたら、わあきれいなまちだと感じるようにする、例えば、水を流すとか。もう一つは上下水道の話、市街地の下水事業も大変であるが、仮にそれが並行

してできるのであれば、浄化センターで余った水も流すこともできる。またポケットパークにも伊賀焼などを使ってもらおうと良いと思う。いろいろあるがハード面で頑張っ一つ一つ取り組んでいきたいと思う。

- （委員）庁舎が中心市街地からこの四十九にきたが、コンパクトシティの理念ということのを忘れてしまったのではないか。交流人口を増やそうとして観光施策等に力を入れているが、この中活計画は1期計画の時から基本理念は生活者が根底になっている。生活者が不自由するようなコンパクトシティであってはならないということで、中活エリアの中に公共公益施設をどんどん計画していかないと生活者にとってのコンパクトシティは成り立って行かないと思う。都市機能誘導区域ということでこの中に公共公益施設が多数含まれているということが基本的な話になってくると思う。それと中心市街地エリアの問題であるが、1次計画をつくったときには事業があつてエリアがあるということが問われた訳であり、先に全部入れてくれということは少し話が1期計画の時とは違うのではないかと思います。
- （委員長）事業の内容を1期と2期でどう考えるのかということでエリアの設定も違ってくると思うが、この地域のまちづくりを動かしていくときにその主体としての自治協議会は重要であり、そこを分割するようなエリア設定は結局何ごととも動かなくなるという意見であったので、そういう主旨であれば事業だけでなく事業を動かしていく主体としてのまとまりというとらえ方をすれば良いのではないかと思います。それと観光客や交流人口の話だけでなく、どういう人にきてもらうのかということも考える必要がある。一見さんはいくら増えても一見さんであり一回しか来ない。リピーターをどうやって掘り起こしていくか。一回来てもらった人に二回目に来てもらえる仕掛けを最初に組み込んでおかないとうまくいかない。更に何度も来ていただく人に定住者になってもらえるような仕掛けが必要である。ひと言で観光客とか交流人口とか言わずに、もう少し具体的にその人のキャラクターをみんなで共有しておいた方が良いと思う。徳島県の上勝町が頑張っており、その合同会社RDND（アール・デ・ナイデ）がHPをつくりいろんな事業を展開しており、そのキャッチフレーズが「上勝町に2週間過ごしてほしい」ところから入る。2週間過ごせるためにはどんな地域であれば良いかという魅力を再発見して磨いていこうということから入る。何故2週間かということ、そのうちの何割かはずっと暮らしていても良いと思ってくれるはずだというストーリーである。そのあたりも半日滞在をするのか、一日滞在をするのか、2日滞在をするのか、もう少し詳細にターゲットを見た方が良い。長期滞在者を対象にした方が居住者との調和もうまくとれる。
- （副委員長）リピーターについてもその通りだと思うが、一度訪れた人が気持ちよくその時間を過ごせることが大事である。受け皿のおもてなしの心でやってもらえればと思う。
- （委員）何故、この第2期計画をつくるかということであるが、中心市街地については周辺に比べても空家率も高い、人口減少率も高い、なおかつ高齢化率も高い、そうした中で庁舎が四十九に移ったということが一番大きな要因だと思っている。旧庁舎の利活用はこの計画の中心にならざるを得ないと考えているので、公共公益施設という意見があつたが、そういった施設について十分に検討する必要があると思っている。

- (委員) 中心市街地に何が必要なのかという青写真をつくったら良いと思う。今、南庁舎の議論をしているが、活性化委員会が考えていかないと前に進まない。若い女性は何回も行きたいまちは何が印象に残っているのか、例えば下呂温泉は食べ歩きをやってランクが一つ上がった。今の伊賀にはそうした若い人が喜んで食べに行くところもない。ハハトコさんがやめるので、そこに若い人中心の洋食店、今大阪にあるが、観光地に行くともう一度行きたいなというようなものは若い人に考えてほしい。そういう提案を身内からしてもらうことが大事だと思う。
- (委員) この前に崇広堂で会議をやったと思うが、どこの担当部署でやったのか。
- (事務局) 企画振興部の総合政策課でやったものであり、その中ででた意見をまとめて公表するというところで進めている。
- (委員) 特に若い女性の意見は、「きれい」「かわいい」「おいしい」という3つの要素があれば良いということだが、残念ながら伊賀市にはないと思っており、何とか3つの要素が重なるようなことができないかと思っている。
- (委員長) よく大学にも大学生の力を借りたいとかいう話があるが、いろいろな大学生がおり、若い女性といってもいろいろいるので、きちっとターゲットを絞る必要がある。そうした情報をうまく伊賀市民や観光客にパッケージとして届ける仕組みが必要だと思う。今日の当日資料1の2ページのお菓子屋さんの客層とか、もう少し詳しく説明してほしい。
- (事務局) 20代から30代、40代の女性がメインになっていると聞いている。ターゲットである。
- (委員) この店は柘植にも本店があり、すごく行きにくい場所にあるにもかかわらず、人が行っている。あと丸柱の方とか、へんぴなところに若い人向けのカフェなどが伊賀市に沢山ある。そこには結構人が行っており、情報発信もしており、遠くからも県外からもそれを目当てに来ている人もそこそこいる。ただ中心市街地にはそういう店は少ないので、そこが問題である。京都の町家を改装したレストランや、カフェなどが好きだが、そういうところに観光に行くことが多い。それと京都もそうだが、城下町は着物を着て歩く人が多い。忍者の格好をして歩くのは伊賀しかないのではないかと思うが、個人的には魅力を感じない。女性のグループだと圧倒的に着物の層だと思う。しかも若い。写真を撮るためだけに一泊二日の旅行をするということもあるようだが、伊賀にはそこまで若者を引きつけるポイントとなる場所はないので、それがまちなかにできたら良いと思う。着物が映えるまちなので着物を着られるまちなになればと思う。
- (委員) 忍町にも中華の店があり、沢山魅力的な店があるが、今は流れの中でそこに立ち寄るのではなく、突然そのポイントに人がわいてでるスタイルで賑わうようになっていると思う。そういうポイント、ポイントをまちな中に誘致してくる仕掛けをすることが大事だと思う。
- (委員) 一般市民の目からみて、もう一度行きたいと思うところはそこで対応してもらった人のハートが温かったところであり、旅行の楽しみの上位の一位になっている。伊賀ぶらに5回ほど連続して参加しているが、伊賀の良さを住民の人はわかっているのかなと思う。こういう問題を考えた時に住民と行政の間の距離感があまりにもありすぎて、その距離感をもう少し詰めていく必要がある。核になる人、核になる

システム、ハートの熱い人たちの集まりがないと物事は動かないのではないかと思う。あと市役所の空いているところは駐車場もあるので重要なポイントだと思う。また、観光客が来たときに宿泊するところがない。しらさぎバスも夜間にも走らすようにすれば住民の人も夜に商店街に食べに来てくれるのではないかと思う。そうした細かいおもてなしの気持ちの行き届いたところにはもう一度行きたいと思う。

- （委員）個人的には趣味がバイクなので、目的地となる場所には食があるかである。若い女性の意見としては「オシャレ」な店が流行るということを知っている。またもう一度行きたいところは人とのつき合いが密にできたところである。
- （委員）一年中忍者フェスタに関してだが、忍者の好きな甥っ子の話として、いつ来ても忍者を感じられるまちになってほしい、また、忍者衣装に着替えた後に遊べるアスレチック的なところがほしいということであった。それとカフェの充実や、まちで過ごせるところがあると良いと思う。若い女性にはインスタ映えする場所もできれば良いと思う。自分でできることとして小さなことだが、おもてなしの心でお客と接するようにしている。
- （委員）自営業なので外に出る機会は少ないが、野菜ソムリエの関係で他の地域に行くこともある。最近イベントの打合せで菰野町のアクアイグニスに行ったが、山形の奥田シェフのレストランのイベント企画の話であったが、名古屋から来る人はオシャレとか、食材に三重のものを使ってとか、温泉もあり、若い人たちが行きたいところではないかと思う。伊賀も温泉地がいろいろあるので、そこに伊賀や三重の食材を使うことに力を入れたいと考えている。そこに芭蕉や忍者などを絡めて巡る、例えば周遊バスを動かすなど。地元の人でも伊賀を知るというコンセプトでこうしたことを実施すれば、他所から来る人も伊賀を知ることができて良いのではないかと思う。それと子どもたちを動かすということに関して自分にはできることは、野菜ソムリエ協会が全国で仕掛けているキッズ野菜ソムリエ育成プロジェクトを伊賀にもってこくことだと考えている。年中さんから小学6年生までを対象にキッズ野菜ソムリエの認定をとらせて、その子どもたちがいろいろな直売所へ行って売る体験をすることで、大人達に伊賀の良いところを発信できれば学習にもなるし、自分たちの地域を知ることでもできる。あと忍者市ということで、大阪や名古屋にも知られるようになってきているので、伊賀ぶらの時にいろいろな仕掛けをすることも大事だと思う。まちかどの忍者に人形を使うと少し怖いので、アニメの忍者ハットリ君などのアニメのキャラクターを使った方がかわいいと思うし、写真も撮りたくなる。
- （委員）発信力をもった人に伊賀に来てもらおうと、伊賀のことをしっかり発信してもらおうことができる。漫画家が上野祭りを取材したいと言ってきたとき、市内のホテルは一杯で泊まる場所がなくて、市街地にアパートを経営している人が、空いてるから泊まっていよいよということで、キーボックスの番号だけ伝え勝手に出入りしてもらった。当然、発信されるし、漫画にもしてもらおう。すると漫画を見た人たちが聖地巡礼ということでやってくる。そのアパートは市外県外からの介護実習の実習生に泊まってもらおうことも可能だと言ってくれている。
- （委員長）いろいろアイデアをいただいたので、これも参考にしながら楽しい行事が増えていけばいいかと思う。
- （委員）先ほどの若者たちが寄って議論したことの関連だが、次回の委員会でも良

いのでどういう議論をされたのか資料として見せてほしい。それと当日資料の活用事例について、もう少し具体的に細かいデータを可能な範囲で示してもらえると、これから自治協で検討していく材料として参考になる。

- （委員長）逆にお客からこういうお店があるという情報も届けてもらえると共有できると思う。先ほどの話で知る人ぞ知る、ということが確認できた。ただそれをもっと広い人に知ってもらおうとか、或いはへんぴなところでも魅力があれば人が行くことが確認できた。へんぴなところだからまちなかより家賃が少し安いはずだと思う。中心街も少し家賃を下げれば面白い人が出店できる可能性があるので、次回以降検討いただければと思う。
- （委員）この会議は旧南庁舎を考える会議ではないと思っているので、住民がどれだけおもてなしの気持ちをもって事業に取り組んでいるかというところが大事なのかと思った。当然、中心市街地の一つのパーツとして旧市役所の問題はあると思うが、それがどうこうというのはこの委員会の委員の気持ちではないと思う。先ほどカフェの話があったが、本当はそこに住居も構えたかったと聞いている。そのときにネックになったのが公共下水道、ちゃんとトイレが整備できていないということであった。ここは公共下水道の議論をするところではないが、やはり公共下水道は大切な社会資本であると思う。
- （委員長）公共下水でなくても水洗にすることはできるので、その辺は無理なく考えればと思う。
- （委員）この計画については、去年の10月22日に中心市街地活性化協議会の石橋会長から提言をいただいております、その中には明確に南庁舎の問題が書かれているので議論の筋から外すわけにはいかないと考えている。
- （委員長）このような活用を考えると、一度、数ヶ月社会実験を行い、市民に任せて芽があるところをしっかりと育てていくやり方もある。
- （委員）そのようなことでいうと、移住者仲間の建築士が5月のゴールデンウィークから伊賀鉄道のつり革広告に南庁舎の利活用について市民からの提案を載せて、広く市民に利活用の考えをもってもらおうことにしていると聞いているので、そういうことも参考にできたらと思う。
- （委員長）次回以降もこのようなアイデアをだしてもらい、実現性の高いものを組み込みたいと思う。

(5) その他

※ 事務局から、今後の予定について第4回委員会日程を7月23日（火）の14:00から変更することを説明し、了解を得た。

また、最後に当委員会の協議は2時間を目途に終わるようにしてほしい旨の意見があった。

（以上）